

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 28 年 11 月号

美田を永遠に ～地区の農地保全に向けた取組～

印旛農業事務所 改良普及課
普及指導員 青木 菜々子

印旛郡栄町の須賀新田地区では、担い手を中心に農地集積に向けた合意形成を図り、農地中間管理機構を通して地区の水田 6.8ha のうち 50% を超える 3.5ha が担い手へ集積できました。“地区の水田を保全していきたい” という思いが担い手と地権者をつないでいます。

1 背景

印旛郡栄町の須賀新田地区は、ほ場整備が完了した農地(30a区画)が広がる水田地帯で、農地の地権者の大半が地区内の住民です。近年、高齢化により農地の維持が困難と考える地権者が増加していました。

2 農地集積に向けた担い手の動き

担い手の1人は、就農当時から高性能化している農業機械の能力を最大限に生かすためには農地の集約化が必要と考え、数年前から地区内外の担い手と借受農地の交換を行っていました。しかし、個人同士で行う集約(借受農地の交換)には限界を感じていたそうです。そのような状態のなか、農業事務所が主催する勉強会で栄町の他地区の担い手6名と一緒に低コスト化や規模拡大について学習を行う過程で、農地集積事例や農地中間管理機構についても学び、「担い手である自分たちが動かないと進まない」と考えるようになりました。そこで、地区内の担い手と栄町役場や印旛農業事務所での農地集積に向けた話し合いが始まりました。

3 農地集積に向けた地区内の合意形成

農地集積に向けた合意形成を図るため、地権者対象の説明会を2回(地区内、地区外)開催しました。説明会を開催するに当たり、担い手の代表2名が地権者全員に対して戸別訪問を行い、「地区の水田を保全するために農地中間管理事業を活用したいので、説明会に来てほしい」と思いを伝えました。その結果、地区説明会に24戸中17戸、地区外説明会では73戸中16戸の地権者が参加しました。

説明会では担い手から農地集積後の耕作割図のイメージを示しながら農地集積の有用性について説明をし、農地集積に向けた合意ができました。その結果、水田6.8haのうち50%を超える3.5haが農地中間管理機構を通して担い手へ集積できました。

4 関係機関のサポート体制

担い手を中心に農地集積を進めるに当たり、栄町役場と印旛農業事務所が連携し、継続的な支援を行いました。

地権者対象の説明会開催に向けて、担い手、栄町役場と印旛農業事務所での5回話し合いの場を設け、その中で不明な点を解消していきました。また、話し合いには地権者代表にも参加してもらい、様々な意見をもらいました。

また、栄町では機構の活用にあたり、機構からの委託を受け土地交渉などの業務に精通した専属職員を1名雇用、地区の合意形成や貸付申込が円滑に進むよう体制を整備し、円滑な担い手への集積を後押ししました。

5 今後について

担い手が地区内の合意形成を進める過程で実施した戸別訪問を通じて、地権者の様々な声を拾うことができました。10年間にわたり、担い手は「安定した営農」を、地区は「農地の保全による農村環境の維持」を保証され、地区全体が安心することができました。

農地集積により、より効率良く作業を行うことが可能になり、担い手の営農意欲も高まっています。農業事務所として、このような取組が周辺エリアに広がるよう今後も支援していきます。



地区説明会の様子

野菜ニュース



千葉県さつまいも協議会 平成 28 年産さつまいも品種別販売方針

全国農業協同組合連合会 千葉県本部
園芸部 園芸販売課 谷口 優

「オール千葉」体制の取組を進める中で、さつまいもについてはこれまで主要 J A を集めた販売対策会議、市場や量販店での販売促進活動などに取り組んでまいりました。今後も産地、市場、県、園芸協会と連携を図りながら、本県産さつまいもの販売・生産の強化を進めます。

1 背景

本県は、さつまいもの産出額が全国 3 位 (181 億円)、東京都中央卸売市場入荷量では全国 1 位 (16,311t) に位置するさつまいもの大産地です。さつまいもには、食味や食感の異なる様々な品種が存在します。本県では、昭和の終わり頃から紅赤系などに代わって「ベニアズマ」が大きく普及してきました。その後、平成 23 年頃からは「べにはるか」平成 26 年頃からは「シルクスイート」の栽培も始まり、高系品種を含め多種多様な品種が栽培されています。

東京都中央卸売市場入荷量全国 2 位 (10,425t) の茨城県の J A なめかたでは、焼き芋需要に対応するために、「紅優甘⇒紅まさり⇒紅こがね⇒熟成紅こがね」と年間を通じて明確な品種リレーを行っています。一方で、本県では様々な品種が栽培されているにもかかわらず、品種の特徴を生かすための販売方針がなく、量販店において効果的な売り場づくりにつながらない、という課題がありました。そこで、平成 26 年度から産地・市場・関係機関で協議を続け、このたび県産さつまいもの有利販売を目的とした「さつまいも品種別販売方針」を策定しました。

2 品種別販売方針

「ベニアズマ」は甘く、ホクホクとした食感が特徴で、青果、焼き芋、業務加工用など需要が多岐にわたります。それに対応するため、年間を通じて安定的に

出荷を行う必要があります。

「べにはるか」は品種本来の特徴を引き出すために、生産者には収穫後 30 日以上貯蔵したものを出荷していただいています。貯蔵の結果、しっとり感と甘さの増した「べにはるか」は焼き芋の最需要期である 12~3 月に出荷し、焼き芋需要が減少し始める夏前までに出荷を終える必要があります。

近年、作付面積が増加している「シルクスイート」はなめらかな食感でとても甘く、こちらも焼き芋に適した品種です。「シルクスイート」は 10、11 月を中心に年内に出荷し、「べにはるか」との焼き芋向けリレー販売を行うことで、秋から本県産の売り場をしっかりと確保します。

高系品種 (大栄愛娘・くりちゃん・さわらっこ) は地域ブランドとして産地ごとに独自の販売戦略を実施します。

また、この品種別販売方針を生産者に周知するために、各生産者部会のさつまいも査定会においてチラシの配布及び説明を行いました。また、各農協の集出荷場には A 1 版のポスターを掲示しています。

3 今後の取組

品種別販売方針を買参人 (仲卸・小売商・量販店仕入れ担当者) にも周知するために、10 月 14 日に大田市場内にてさつまいも試食宣伝を開催しました。また、各品種の特徴を記した POP を市場や量販店に配布し、お客様に本県産のさつまいもを PR していきます。

平成 28 年産 千葉県産さつまいも 品種別販売方針

さつまいもは品種ごとに用途や需要期が異なります。県産さつまいもの有利販売のために、計画的な出荷を心がけましょう!



品種名	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	主な用途
ベニアズマ	[Red bar from Aug to Oct]												多用途への販売 (青果用、焼き芋用、業務加工用)	
べにはるか	[Red bar from Dec to Mar]												需要期の焼き芋向け販売	
シルクスイート	[Orange bar from Oct to Nov]												年内の焼き芋向け販売	
高系品種	[Dashed box]												多用途への販売かつ地域ブランド	





千葉県ねぎ協議会による先進産地調査の結果報告について

公益社団法人 千葉県園芸協会
産地振興部 主査 榎 晋介

当県では「オール千葉」の取組として、野菜の主要 7 品目で品目別協議会を設置し、産地連携の取組を行っています。「千葉県ねぎ協議会」の取組として、9 月 15 日～16 日に秋田県の調査を行ったので報告します。

1 視察の概要

秋田県は、国の農政改革への対応を強化し、米に偏った農業構造を複合型に転換するため、「オール秋田」体制で様々な取組を行っています。特にねぎについては、販売金額が 10 億円を超える JA あきた白神や加工業務用へ取り組む生産法人など優良事例が多数あります。

そこで、県産ねぎの生産・販売力強化と産地の活性化を図るため、県、全農千葉県本部及び千葉県園芸協会が秋田県の取組を調査しました。

2 平成 28 年度青果物流通システム高度化事業

野菜流通カット協議会が主催し、大潟村で開催された加工業務用ねぎの研修会に参加しました。セミナーでは、秋田県の加工業務用野菜の取組や流通事業者からの提言、越冬育苗による夏どり栽培等について情報提供がありました。

現地視察では、大潟村で加工業務用ねぎを約 10ha 生産する(有)正八の出荷調製施設を視察しました。人件費抑制を目的とした作業の効率化に取り組んでおり、省力化機械の導入はもちろん、メーカーと協力した加工業務専用機械（根葉切り機や皮むき機）の試作や作業レイアウトの合理化等により、作業者はほとんど動くことなく効率的に業務を行うことができるようになっています。また、定植・管理・防除・収穫等の各作業の省力化を図る機械の実演・展示の様子を見学しました。



(有)正八の出荷調製施設

3 JA あきた白神との情報交換・視察

世界遺産である白神山地の南に位置する JA あきた白神では、キャベツやアスパラガス、ねぎ等の園芸作物が栽培されています。主要品目のねぎについては、H22 に 9.6 億円の売上を達成したことから、更なる拡大のため、H25 に「10 億円販売プロジェクトチーム」を立ち上げ、①面積、②反収、③単価の 3 点を対象に様々な取組を行いました。

①については、既存面積（123ha）から 4～5ha の増加を目標に、面積拡大に対する助成措置を市役所と連携して行いました。②については、反収が 550 ケース/10a 以下の生産者に個別巡回を実施しました。③については、販促資材やラッピングトラック等を活用した PR 活動を行いました。

また、H26 には基盤整備の実施地区において秋田県が実施する「園芸メガ団地育成事業」を活用し、育苗ハウスやトラクター、省力化機械等を整備しました。農事組合法人 2 法人、認定農業者 2 戸で生産を開始し、H27 には早くも売上 1 億円を達成しています。

4 全農秋田県本部・秋田県との情報交換

全農秋田県本部では、水稻からの転換を目標に園芸振興を進めるために、主要 3 品目（ねぎ、えだまめ、アスパラガス）を重点品目としています。また、関係機関と一体となり、「Let's Go! あきた園芸力強化運動」を軸とした生産振興と「オール秋田」を基本とする販売を展開しています。

秋田県では、米からの脱却や園芸産出額の飛躍的増大等を実現するため、従来の手法にとらわれない起爆剤的な施策として、H25 から「園芸メガ団地育成事業」を実施しています。本事業には「1 団地当たり最低販売額 1 億円以上」「原則として 1 か所に団地化」等の要件があり、現在までにねぎ、トマト、ダリア等といった品目で 8 か所整備されています。実施や運営で様々な課題もありますが、関係機関の連携の下、目標達成に向け取り組んでいます。

5 今後に向けて

秋田県では関係機関が連携した産地振興の取組が既の実施され、成果が得られつつあります。本県においても、千葉県ねぎ協議会を核として、県産ねぎの加工業務用の推進やソフト・ハードの両面からの支援を関係機関と連携して実施していきます。



園芸メガ団地の出荷調製施設



切り花カーネーションの LED 電球を用いた電照栽培

農林総合研究センター 暖地園芸研究所
野菜・花き研究室 上席研究員 海老原 克介

切り花カーネーションに対する LED 電球を用いた電照栽培では、赤色及び遠赤色の波長の光源を用いることにより白熱電球並に開花が早まり、増収する傾向がありますが、一方で品質が低下する可能性があることが明らかとなりました。

1. はじめに

千葉県では、切り花カーネーションは主に印旛、香取、安房地域で栽培され、平成 26 年産の作付面積は約 26ha、産出額は約 11 億円となっており、代表的な切り花品目です。カーネーションは相対的長日植物であり、長日条件では花芽分化が促進され、開花が早まることが知られています。そこで、近年農業分野にも導入されつつある LED 電球を用いた電照栽培が、切り花カーネーションの収量及び品質に及ぼす影響を明らかにしたので、紹介します。

2. 電照栽培に適する LED 光源

波長の異なる遠赤色(波長 730-740nm)、赤色(波長 620-630nm) 青色(波長 460-470nm)及びピンク色(青と赤を 7:1 で混合)の LED 電球を用いた電照栽培で収量を比較検討したところ、遠赤色及び赤色 LED 電球による電照区では、白熱電球並に、無照射区に比べて株当たり収穫本数が増加する傾向が認められました。これは、無照射区では栽培期間中に採花まで至らなかったものが、電照区では開花が促進されてこの期間中に採花できたものと考えられます。これに対し、青色及びピンク色 LED 電球による電照区では、増収効果はほとんど認められませんでした(表)。

表 LED 光源の種類がカーネーションの収量に及ぼす影響

供試品種	収穫本数(本/株)					
	遠赤色	赤色	青色	ピンク色	白熱灯	無照射
ロイヤルグリーン	10.4	10.6	7.8	8.2	10.2	7.2
スターチェリーテッソ	9.6	9.4	6.6	7.6	8.4	5.6
マスター	10.0	9.0	9.4	8.8	10.0	9.2
ライトクリームキャンドル	8.2	6.8	6.4	6.4	6.2	7.2
ホペラ	11.6	11.0	12.4	10.8	11.8	11.2
リアン	10.0	10.0	8.6	8.2	9.8	9.0
平均	10.0	9.5	8.5	8.3	9.4	8.2

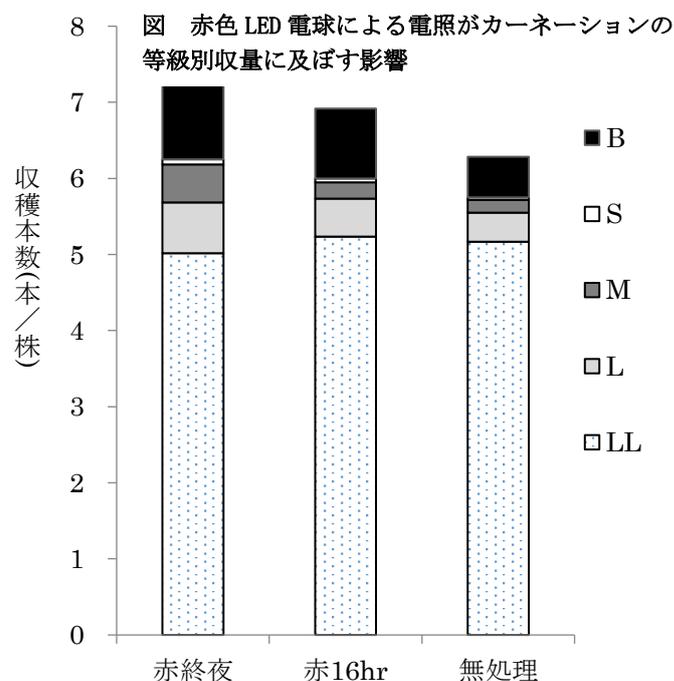
注 1) 光源はそれぞれ地表面から高さ 1.5m の位置に設置し、電照は、平成 23 年 8 月 25 日から収穫終了の 6 月 30 日までの間、自然日長に電照時間を加えた日長時間が 16 時間となるよう適宜調整し、夕方から夜間にかけて行った。

3. 電照栽培が品質に及ぼす影響

増収効果が認められた赤色 LED 電球を用いて終夜又は日長が 16 時間となるよう電照を行い、収量及び品質への影響を比較検討しました。その結果、電照区では無照射区に比べて開花が早まり、栽培期間中の株当たり収穫本数は増加しました。しかし、品質面では、切り花長や切り花重、節数及び輪数が減少する場合があります(データ省略)、下位等級の収穫本数が増加する傾向が認められました(図)。

4. おわりに

遠赤色又は赤色 LED 電球を用いた電照栽培により、カーネーションの開花が促進され、増収する反面、品質が低下する可能性があることが明らかとなりました。当研究室では、今後も試験を継続し、品質を低下させない効果的な電照方法について検討していく予定です。



光源は地表面から高さ 1.5m の位置に設置し、電照は、平成 25 年 9 月 5 日より収穫終了の 5 月 31 日まで、自然日長に電照時間を加えた日長時間が 16 時間となるよう照射した 16 時間区(16hr)及び終夜(17:00~6:00)照射した終夜区を設けて行った。結果は、供試した 3 品種(「スターチェリーテッソ」、「シルエット」、「ロイヤルグリーン」)の平均値を示す。

千葉県農林総合研究センターを公開します！

県では、千葉県農林業の先導的な技術開発拠点である農林総合研究センターを広く一般の方々に知っていただくため、「公開デー」を開催します。

1 日 時

平成 28 年 11 月 5 日 (土)
午前 10 時から午後 3 時まで (荒天の場合は中止)

2 場 所

千葉県農林総合研究センター
(千葉市緑区大膳野町 808)
*駐車場には限りがありますので、公共交通機関を御利用ください。

3 主な内容

- (1) 実物展示による最新の研究成果の紹介
- (2) 研究施設ガイドツアー
- (3) ガーデニング教室
- (4) 体験 (サツマイモ収穫 (100 円)、お米の脱穀・粃すり (無料)、どんぐり工作 (無料))
- (5) 食育クイズ、農産物・加工品の販売等

4 問い合わせ

千葉県農林総合研究センター 電話 (043) 291-0151 (代)
E メール carc@mz.pref.chiba.lg.jp

来て！見て！感じよう！
ちばの大地のおくりもの

千葉県農林総合研究センター
公開デー

11月5日(土)
午前10時～午後3時
* 荒天中止

農林総研のお仕事紹介

どんぐり工作
お米の脱穀・粃すり
ミニ農林業体験

専門家が指導
ガーデニング教室
園芸相談

農産物販売

サツマイモ収穫体験

お問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター研究マネジメント室 TEL(043)291-0151(代)
〒266-0006 千葉市緑区大膳野町808 <http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/>
<主催> 千葉県農林総合研究センター
<協賛> 市町村 (公財) かなたDNA研究所 (公社) 千葉県園芸協会 千葉県動物園協会
(公財) 千葉県青少年協会 千葉市 千葉県農林業振興協会 (五十周年)

県立農業大学の学園祭第37回「社稷祭」を開催！

平成 28 年 11 月 12 日 (土)・13 日 (日) の 2 日間「一致団結！！農業の若人たち」をスローガンに「社稷祭」を開催します。

恒例の農産物販売、いも堀り体験、ミニ動物園、スタンプラリー、卒論パネル紹介、模擬店のほか、今回は新たな催しとして「菓子まき大会」を行います。

毎回約 3000 名に御来場者いただき、学校内農場で生産した農産物を買っていただくお客様で賑わっています。

生徒が丹精込めて作った野菜、果物、花、加工品などを是非お買い上げください。

お子様も大人も楽しめます。農業大学校生一同皆様方の御来場を心からお待ちしています。

【会場】千葉県立農業大学校
(〒283-0001 東金市家之子 1059)

【問合せ先】千葉県立農業大学校
TEL 0475-52-5121
HP <http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html>

